

令和4年度入職式



永年勤続表彰

法人から表彰状と記念品、保護者会から御祝いが贈呈されました。今後益々の活躍に期待します！



里だより

No.364

令和4年5月1日

一発行一

菊池郡大津町平川400番地

社会福祉法人 清和会

つくしの里

TEL 096-293-1550

FAX 096-293-1579



新入職員あいさつ
編集後記……………9

行事予定……………8

サービス向上委員会より
行事報告……………6

職員より・事務局より……………5

主任より……………3

サビ管より……………2

施設長より……………1

(ページ)

五月号もくじ



つくしの里 ホームページ

<http://www.tsukushinosato.or.jp>



施設長より

職場内研修



桜の季節も過ぎ、敷地内は大津町花のツツジが咲き誇っています。季節が巡ってくれば同じように咲く自然の力に感心させられます。四月に新職員二名を迎え、清々しい挨拶と態度や、第三者的な視点に、事業所内にも新しい風が吹き、こちらも気を引き締める機会が増えていきます。ありがたいことです。

さて、前号で今年度の事業計画の法人理念・サービス方針他をお伝えさせていただきました。今回は、職員研修の内容を紹介させていただきます。

まず、『虐待防止』『感染症』は必須です。特に今年度は、身体拘束等の適正化として、対策を検討する委員会の定期的な開催、指針の整備、定期的な研修が義務付けられましたので、従来の虐待防止研修の中で人権についての学びを深めたいと思います。

次に、事業継続計画（BCP）を立てるため、『感染症対策』『災害対策』です。感染対策のBCPは出来ていますが、実際体験した対応方法も踏まえ見直します。災害対策については、熊本地震の経験を活かし、それを風化させないことも必要です。風水害も含め対策します。

支援現場で直接必要な『介護技術』『救急法』も予定しています。本誌でも常々お伝えしている利用者さんの高齢化は顕著なものとなりました。自立のために、自立の促しを組み立てる支援とは別に、介護・介助の支援も増えてきました。この習得が事故を未然に防ぐものとなります。また、介護技術の根底になる介護を受

ける側の自尊心への配慮の学びにもなります。救急法では、事故や体調の急変時の対応について即座に初動出来るようにします。

障がいの専門的な研修として『認知症』『精神障害』『行動障害』について事例をもとに研修します。その症状のために苦労されている利用者さんに寄り添える内容と今後のケアの指針が出来ると思います。知識の習得だけではなく、職員全体の支援技術の底上げにつながる大切な研修です。この他、外部講師をお招きして『看取り』の研修を行います。現状では、ターミナルケアまで行っていますが、看取りにはたどり着いていません。命に向き合う支援を体験している現状に必要なものとして入れました。また、グリーンケアの一環として、私たちの接し方で、残された方の悲嘆が、少しでも緩和できるようにするのも努めの一つだと思っています。

これらの研修が、その時だけにならないように、現場に生かされるかは、その後の各々の姿勢にかかってきます。それが利用者さんの生活の質の向上につながります。学べるということは幸せなことです。大切な時間にしていきたいと思います。

コロナ禍で、オンライン研修が通常になってきていますが、本来であれば、職場外研修でいろいろな方と接して、いろいろな価値観を見聞きして、肌で心で感じる研修に参加してもらいたいところです。まずは、職場内研修を充実した内容にして利用者さんの支援に繋がります。

施設長 松永一博

サビ管より



あつという間に桜が散り、昼間は初夏を思わせる陽気だったかと思うと、肌寒い日もあり、体調管理が難しいですので、皆様もお気を付けください。

新型コロナウイルス感染者数が減らないまま、令和四年度のスタートを迎えました。感染者が確認されて、「三年は続くだろう」と言われていた三年目になりました。第六派になってからは、人の流れも減らず、イベントも開催されることが増えているようです。感染予防がしにくい動きになっていると思いますが、引き続き感染予防をしながら、世の中の動きを見て、利用者さんの生活が潤うようにしていきたいと思えます。

今年度、サービス向上委員会を再編しました。サービス向上委員会は、二回目に第三者評価を受審したあとに、日頃からサービス評価項目について考えたり、取り組んだりする機会のためにつくりました。それから五年ほどが経過し、サービス向上委員会の在り方も変わってきて、今年度は特に、重点取り組み課題の達成のためのサービス向上委員会の役割が大きくなっています。

施設の状態や利用者さんのニーズに合わせて、十一の委員会があります。認知症、行動障害、精神障害、介護技術、権利擁護、生活、緊急対応、施設ピアール、イベント、感染症、地域交流です。

認知症、行動障害、精神障害、介護技術委員会は、利用されて

いる利用者さんの特質を考えると、外せない専門性を取り上げることになりました。専門性を向上させると謳いながらも、なかなか成果につながらない現状がありました。昨年度、課題についてレポートを提出してもらおう研修を実施してみました。その結果「施設側から何をどれくらい求められているか」が伝って良かったのではないかと感じました。「自主性に任せる」という放任をしていたのではないかと思えます。サビ管などのポストの人数は限られていますので、そうしたキャリアを積みなくても自分に自信となる物があれば、やり甲斐につながると思いました。これらの委員会は、将来的に他の施設から支援についての問い合わせが来る、見学者が絶えない、講演依頼がくることが目標です（笑）。

生活委員会は、入浴、排せつ、食事、睡眠など生活に関することを改善する委員会です。毎月の利用者の会で、各項目について具体的に要望を聞きながら進めていきます。

緊急対応は、何かが起こることを想定した備えや対応ができるようにしていきます。東日本大震災から十一年目でも福島県などで大きな地震が起きています。熊本も他人事ではありません。

施設ピアール委員会は、人材確保推進委員会と併せて施設の魅力を発信していきます。

イベント委員会は、いろいろな行事での盛り上げ、季節に応じたイベントの企画などを行います。

感染症は、感染予防を徹底させたり、感染予防のためのアイデアを提供したりします。

最後に地域交流では、第三者評価でも地域貢献が弱いということがありました。利用者さんが地域の中で一役割を担えるような取り組みが出来ればと思います。その初めに、地域の見守り活動、

移動販売での荷物持ちのお手伝いなどを利用者さんと一緒にしてみようと思います。

三月末から各委員会と半年間の計画を話しあっていますが、とてもワクワクしています。サービス向上委員会の活動が充実していくようにサポートしたいと思います。

最後になりましたが、今年度、グループホームから生活介護・施設入所支援のサビ管に異動になりましたので、今後ともよろしくお願い致します。

支援課長 木庭 由香



主任より

介護技術サービス向上委員会として。

「サビ管より」でもご紹介しましたが、今年度よりサービス向上委員会の編成が変わり、利用者の特性に応じた専門性を向上するチームとして、行動障害、認知症、精神障害、介護技術が設置されました。

これまでは、職員個々で学んだことを広く発信したり、共有したりすることが難しかったように思います。これからは委員会というチーム形態で、複数人の視点で施設にとって必要なことは何かを吟味し、必要と思うことを広く発信し、定着させ、専門性を

高めるための取り組みを、これまで以上に『形』にしていけるのではないかと期待しています。しかしながら、委員会の一員としての働きや、各分野の専門性向上の具体的な進み具合を課せられ、「試されていくのだな」と緊張もしています。

私は介護技術の委員です。行動障害の強い方が多い班に所属しているときには動作法に関心をもち、身体の不自由な方が多い班に所属してからは、姿勢やポジション、筋力など、身体の在り方や動きに関心をもっていました。昨年からは『介護技術』にも目を留めるようになりました。介護福祉士として介護技術は学びましたが、再度見直すと、本当に幅広く細かく改良が加えられ、利用者だけでなく、職員の負担も考えられた安全なスキルと、利用者の方の自立を促せるスキルもあり、一つひとつの動作に対する配慮など、新たに学んでいます。介護技術の奥深さに圧倒され、現段階では実践につなげ、身に着けるまでには至っていません。

障害のせいなのか、多くの利用者さんは老いが早いと感じます。介護技術は、高齢者や身体不自由のある方に限らず、その人らしく健やかである為に、若い頃から備えられる内容だと思っていますので、今後、将来を思い描いて、介護技術委員会の一員として、情報やスキルを発信、共有していきたいと思えます。

主任支援員 池田 亜紀



虐待防止

つくしの里では、毎月施設内研修を行なっています。四月は、「虐待防止・身体拘束」の研修でした。

数年前、私は強度行動障害のある利用者さんを担当していました。Mさんは、自分の感情をスムーズに言葉で表現できません。ある日から昼食になると食事が進まず、心身に緊張が見られるようになりまして。食は楽しみにされている方なので、今日の献立を伝えて気分を上げたり、手を添え口まで運んだり、食べられる物から食べるように声掛けしたり、一緒に食事を摂ったり「食べたくないなら食べなくていいです」と時には注意し突き放してみたり、私がよくないのかもしれないと最初から声を掛けずに様子を見たり、皆と少し時間をずらしてみたり：色々試してみました。今日は少し進むという日もありましたが、状況は一向に変わりませんでした。日々、昼の時間はMさんとの時間に費やしていました。Mさんが発する言葉からヒントを得られるのではないかと、より関わりを丁寧にしてみました。未だに理由は分かりません。毎週末の帰省時にはスムーズに食事をされているようでした。

ある時、テーブルが混み合うという理由で、いつもの席から隣の席へ移動し別の方々との食事を摂って頂きました。するとスムーズに食事を摂られました。一緒にテーブルを囲むメンバーには注目しておらず、それが理由だったのか、きっかけになっただけなのかは不明ですが、それだけで!!解決したの!!と目が点でした。

当時、私の心の中には様々な感情がありました：寂しさ・悲しさ・疑問・苛立ち・期待。Mさんを気がけて一緒に食事を摂って

くれる職員は数名いましたが、一緒に解決へ向けて踏み込んでくれる仲間がいないように感じていて、強い孤独感を持っていました。それは、Mさんも同じような気持ちだったのではないかと思っています。

私の支援を虐待のように感じる職員もいたと思います。実際、私もこれは虐待になるのか?と自問自答しながら支援を進めていました。反省する点は多々あります。一言で表現すると苦悩の日々でした。行き詰っていましたが、不思議と「諦め」はなかったのです。もちろん私の意地もありました。しかし、Mさんの事を理解したい、Mさんの苦痛を緩和したいという強い思いがあったからです。

研修の中で、身体拘束がもたらす精神的弊害の中に「諦め」という言葉がありました。障がい者のあきらめと介助関係に関する研究などあるように、利用者さんは日々職員とのやりとりで「諦め」があると思います。それは利用者さんの表情や言葉で感じています。それを解かっているながら対応できないこともあるため申し訳なく思います。解かっているながら対応しない、できるためにはどうするか考えないのも虐待の芽だと思えます。相手のことを考え思いやる、利用者さんの諦めや困っている事などに気付くことの大切さを今ひしひしと感じています。この気持ちを忘れずに一年間頑張ります。

主任支援員 中尾 麻里子



職員より



4月のある日曜日、中庭で数名の利用者さんが日向ぼっこをされていました。天気も良く、心地いい陽ざしのもと、気持ち良さそうに横になられており、夜勤明けだった私は、羨ましくて一緒に横になりたい気持ちでした。

さて、新年度がスタートして1ヵ月になるかとしています。私は昨年度分の“宿題”がまだ終わっておらずバタバタしている状況です。利用者さんには出来るだけ迷惑を掛けない様に気を付けているつもりですが、「衣替えはいつするの?」「活動道具はまだ買ってないの?」とのお尋ねに、つつい「来週までには買ってきます」と返す事も…。昨年も同じようなやり取りをしていた事を思い出し、本年度こそは早め早めに準備をして要望に応えていきたいと思っています。

4月14日、地震発生から6年目を迎えました。時はあっという間に過ぎ、改めて当時の写真や新聞を見つめ直しましたが、今また地震が起きたらと思うとぞっとしてしまいます。東北地方では先月にも大きな地震が発生していることから、もう一度自分自身の防災意識を振り返って普段の業務内においても危険な所はないか、高い所に物はないか、いろいろな視点から見つめ直していきたいと思います。
(支援員 北島)

先日、ふと何年か前に占いに行った事を思い出しました。私は大学が心理学専攻で、心理検査や心理療法、カウンセリング等、占いと似たような勉強をしていたこともあり、あまり信じる方ではありませんが、その分野にはとても興味があります。血液型での性格分析は有名ですが、今は顔つき等でも見たりできるそうです。占いの中にもいくつか種類がありますが、私が行ったところは基本的に生年月日で占っていくものでした。そもそも占いとは何を根拠にしているのかと思いますが、統計学だそうで、占い師の先生も断言せずに「こういう傾向にある」というような言い方をされ、「生まれが一緒だからと言って性格など一緒なはずはない」と言われたくらいでした(笑)

利用者支援を行う上でも、同じ人はいない、というのはもちろんですが、こういう傾向にある等、しっかりとデータを取りながら支援に当たっていききたいと思いました。

(支援員 村上山)

事務局より

入職して早くも一年が経ちました。信じられないくらいあっという間の一年でした。事務仕事初心者の方は先輩方に迷惑ばかりを掛けたと思います。分からないことだらけだったので、毎日質問と失敗を繰り返していました。その都度、丁寧に教えてもらい、時には一緒に謝って下さる先輩方のおかげで、少しずつ仕事をこなせるようになりました。体調不良で休むことも多く、ご迷惑をお掛けしたにも関わらず心配して下さって、改めて先輩方の優しさとの職場に就職できたことを嬉しく思える一年でした。また、利用者さんが楽しそうに話される姿にも元気をもらいました。今年度からは新しい業務も増え、今まで以上に忙しくなると思いますが、信頼して仕事を任せてくれた先輩方の期待に応えられるよう頑張っていきたいと思っています。無遅刻無欠勤を目標に体調管理も頑張ります。



(事務員 井手)

サービス向上委員会より



■ 認知症【主任支援員 山中・支援員 尾崎あ・山下】

今年度より新たに「認知症」委員会がサービス向上委員会に設置されました。専門職としての知識を深める為、委員が率先して知識・技術を習得し、職員研修を中心に他職員、並びに利用者に還元することが目的です。私達委員会のメンバーも認知症に関しては、まだまだ理解が浅い部分があります。まずは認知症について深く学び、学んだことを現場に還元していきたいと思います。また、つくしの里の利用者さんの中には、実際に認知症と診断されている方、認知症の傾向のある方がいらっしゃいます。その方々が普段どんなことに困っているのか、どんなことに生きづらさを感じているのか、少しでも改善のお手伝いできればと思います。

行事報告

※ 3/21 (月) ~4/20 (水) の実施分について報告いたします

★ 施設・後見人・家族情報交換会【3月30日(水) 大津町生涯学習センター】

令和3年度第1回施設・後見人・家族情報交換会を行いました。令和3年度は、コロナ禍の影響もあり大津町生涯学習センターで第1回目の開催となりましたが、平日にもかかわらず多数のご家族の方にご来場いただきました。主な内容としては、令和4年度の組織体制及び事業計画説明、又、各班事業計画などの説明をさせていただきました。まだまだ、with コロナが続きますが、予定した計画が絵に書いた餅にならないようにしていきたいと思います。当日は、お忙しい中、ご来場いただき誠にありがとうございました。

(支援係長 竹下)



★ 入職式・永年勤続表彰【4月1日(金) つくしの里】

令和4年度の入職式を行いました。3月の研修期間を経て、今年は男性2名の新職員を迎え新たなスタートを切りました。

学生から社会人となり慣れないことや不安なことも出てくると思います。わからないこと等は先輩職員に尋ね、一日一日を大切に、少しずつ成長して欲しいと思います。先輩職員一同、しっかりとサポートしていきます。

また今年は、30年の永年勤続者1名、20年の永年勤続者1名、10年の永年勤続者3名が表彰を受けました。(主任支援員 小嶋)



春の献立

コロナの影響で毎年恒例のバイキングが中止となりました。その代わりに「春のお弁当」を始めとした春らしい食事が並びました。

《春のお弁当》

R4.3.29 昼

- ・うなぎちらし
- ・刺身盛り合わせ
- ・天ぷら盛り合わせ
- ・豚角煮
- ・菜の花の和え物
- ・肉うどん
- ・ショートケーキ+メロン
- ・ジュース

★ケーキ・ジュースは保護者会様からです

★メロンはコロナお見舞いとしていただいたものです



《年度末メニュー》 R4.3.31 昼

- ・オムライス
 - ・じゃがいもの桜えびニンニク炒め
 - ・ジュリアンスープ
 - ・塩キャラメルプチケーキ
- ★オムライスは大好評でした



《新年度メニュー》 R4.4.1 昼

- ・赤飯
- ・ちぎり揚げ
- ・白和え
- ・もずくのすまし汁
- ・ストロベリーケーキ

春の献立はどうでしたか？各班の感想をお願いします。



《花まつりメニュー》 R4.4.8 昼

- ・桜ちらし寿司
- ・コロッケと桜えび入りクリームコロッケ盛り合わせ
- ・茶碗蒸し
- ・桜ゼリー

★クリームコロッケは利用者さんからのリクエストです

【給食会議】



全部おいしかったです😊

行事予定



☆ つくしんピック (つくしの里)

期 日：5月10日 (火)

内 容：今年度からイベント委員会の企画でグループごとに開催します。

☆ 生活介護③班イベント (つくしの里)

期 日：5月11日 (水)

内 容：中庭で「縁日」を開きます。ヨーヨー釣りと輪投げを楽しみ、
昼食は焼き肉弁当を味わいます♪



☆ 生活介護②班外出

期 日：5月26日 (木)

内 容：小グループに分かれて外出する予定です。行き先は検討中です。決まり次第、
改めてご連絡します。



☆ 面談・通帳確認 (つくしの里)

期 日：5月16日 (月)～31日 (火)

内 容：令和3年度結果報告と令和4年度支援計画、及び通帳確認を予定しています。
別紙文書をご確認のうえ、ご都合の悪い場合は担当職員までご連絡下さい。

～新型コロナウイルス対策のため予定を変更する場合があります～

昨年8月の創立30周年記念式典のお祝いとして頂いた胡蝶蘭を理事長が株分けして施設長室で大事に育てられました。

手を掛けた甲斐あって、先日、可憐な花が咲きました。

植物も人と同様、「手間・暇・愛情♡」が重要です。



R4.4月



R3.8月

施設PR委員会 今月の1枚!



満開の桜の下で踊るSさん☆
良い笑顔ですね♪

ありがとうございました

今月の掲載分は、
令和四年三月二十一日、
令和四年四月二十日です

【シヨートステイ

日中一時支援事業のご利用】
(二名 延べ 十二日)

※コロナ対策のため、生活介護のご契約者
のみ受け入れ中です。

【寄付・寄贈】

- ・大島 照雄 様
- ・藤田 孝志 様
- ・森川 照子 様
- ・穴井 るみ子 様
- ・坂口 文雄 様
- ・松川 幸介 様
- ・アロン化成(株) 様
- ・【ボランティア】
・村里 和洋 様
- ・後藤 裕司 様
- ・前原 透 様
- ・古閑 靖浩 様
- ・坂本 励帆 様
- ・松尾 麻未 様
- ・木村 マサ子 様

誠にありがとうございました。
利用者さんの為に使用させて頂きます。



新入職員あいさつ

今年度は二名の職員を迎えました。
この場を借りてご挨拶申し上げます。

【支援員 生活介護②班】

○ 矢次 隼太 (やつぎ はやた)

三月の中旬から研修に入り、四月から正式に勤めることになった矢次隼太と申します。福祉に関しては、今までの経験も少なく、覚えることも沢山ありますが、先輩職員の方々に教育されながら少しずつできることを増やしていきたいと思う所存です。何卒よろしくお願ひします。

【支援員 生活介護⑤班】

○ 山内 勇人 (やまうち はやと)

高校、大学と福祉について学んできましたが、いざ現場に出てみると講義通りではなく、初めての事ばかりで戸惑うことも多いです。それと同じくらい新しい発見が毎日あり面白さも感じていきます。利用者さんとの信頼関係はもちろんの事、ご家族の方々との関わりも大切にしたいと思ひます。至らない点も多々あるかと思ひますが精一杯努力して参りますのでご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひします。

編集後記

清々しい新緑の季節となりました。
ここ数年は、外出して季節を楽しむこともできませんでしたが、今年は感染対策を徹底して、森林浴はどうかと考へたりします。年度末・年度初めは、ずっと数字を見ていたので何かしらリフレッシュしたいのです。

二名の新入職員を迎え、つくしの里にもさわやかな風が吹いています。新しい顔を見るだけで、なんだか新鮮な気持ちになつて、今年度も頑張ろうと思うのは、私だけではないようです。

※お詫びとおことわり
里だより担当では、毎月十分注意して、記事の記載、確認をしておりますが、誤字脱字等がございましたら何卒ご容赦していただきたく存じます。

お母さん
ありがとう

